

## 卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和5年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	京都大学	整 理 番 号	1 9 1 0
プログラム名称	メディカルイノベーション大学院プログラム		
プログラム責任者	伊佐 正	プログラムコーディネーター	渡邊 大
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間調査で指摘した定員を超えて希望者全員を受け入れていることについて、令和5年度は本人や指導教員からモチベーションを確認する等の手段で選抜が行われた。</li> <li>・ プログラムへの理解を深めるため、入学時のみならず入学後の説明会やキャリア形成説明会やサテライトイベントを開催している。プログラムの情報は広く入学生にメールで周知されるなど、すそ野を広げる努力が行われている。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【大学院教育全体の改革への取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本プログラムも含めた3つの卓越大学院プログラムを通じて、大学院教育支援機構が設置されるなど、大学院改革を推し進めている。</li> <li>・ メンター制度が若手教員にとって、研究提案や修論審査等の査読を通じて学ぶ機会となっている。このプログラムを通じて、医学研究科内の修論審査、博士課程中間ヒアリング制度に若手教員が参画することとなった。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本プログラムを含む3つの卓越大学院プログラムの取り組みを、京都大学が大学院改革の方針とした掲げる高度学際戦略、社会適応戦略、国際教育戦略にどのように反映していくのか、組織・制度面も含めて検討を進めていただきたい。具体的には（1）誰が3つの戦略を構築する役割を担うのか、（2）3つの戦略を実行するパイロットプログラムとしての3つの卓越大学院プログラムの運営にどのように戦略をはめ込んでいくのか、（3）3つの卓越大学院プログラムの運営結果をどのように戦略にフィードバックしていくのかという3点の明確化をお願いしたい。</li> <li>・ 知のプロフェッショナルとして、専門性を深めるとともにそれを社会実装につなげることが求められる。本プログラムにより、学生の視野が広がっていることは素晴らしい一方、社会実装面が強調され、本来核として重要な専門性を深めることの比重が軽くなるように、バランスをとって運用を進められることを期待したい。</li> <li>・ 入学時の合格基準に関しては本卓越大学院プログラムの3つのポリシーを含めて、不採択学生にもわかるよう丁寧に情報を公開することが望ましい。</li> <li>・ 補助期間終了後の資金計画は、可能な範囲で具体的、かつ分かりやすくまとめていただきたい。</li> </ul>			